

国見学園コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

令和7年2月 (事務局：国見町教育委員会教育総務課 ☎585-2119)



令和7年1月9日(木)、くにみ幼稚園において第4回国見学園コミュニティ・スクール委員会が開催されました。保育参観の後、地域の方々と中学生がふれあうことで、中学生のより豊かな育ちや学びにつながることを願い、県北中学校にできた余裕教室を活用して「国見ふれあいルーム」の開設を目指し協議が行われました。また、協議の後、利府町文化交流センター「リフノス」センター長の野澤令照様から指導・助言をいただきました。

協議で出された意見から (一部抜粋)



教室の一部に畳などを敷き、地域の方が活動しているところに、子どもが訪れて交流するような場面があってもよいのかなというイメージがあった。

子どもたちの学びと教室利用者の活動がマッチした場合は、授業の中に入れていただく等も考えられる。



【協議の様子】



まずは教室開放可能な日にCS委員会でプレ開催してみたい、どんなことができるのかを探り、町民への周知を図ってみたいはどうか。



観月台文化センターでのサークル活動をふれあいルームで行ってもらえるのもよい。また、地域の方への周知としては町のホームページや回覧等の利用が考えられる。



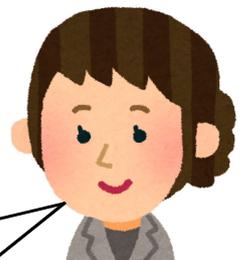
こんなイベントをするので来てくださいというような、最初から全てを決めて周知を図るのは難しいと思う。とりあえず開放して周知を図ることが大事なのかなと思う。

地域の方にぜひ中学校にお出でくださいと言っても敷居が高い。まずは保護者の方が仲間を誘って子どもたちの様子を見に行くなどして、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを図ったり、中学校に初めて子どもを入学させる保護者の方が誘い合って見学に行ってみるなど、自然な形でふれあいルームを活用してみてもいいのではないかな。



授業参観の機会を活用して、保護者にふれあいルームの周知を図ってみてはどうだろうか。ふれあいルームを参観者の休憩所として利用してもらっても考えられる。

何をやるのか具体的に決まってるから、具体的に決まってるから、開催したい方がよいのだから、見切り発断で進めて、管理担当として行っただけでは無駄な時間になってしまう。





教室管理の担当を引き受けたものの何をしたらよいのかという戸惑いも当然あると思う。自分のイメージとしては、教室管理者も利用者の一人として、例えば授業の様子を参観したり、読書を読んだり、知り合いの方を誘って一緒に来て自由に過ごしていただくのもOKかなと思う。そんな中でいろいろな人が教室に足を運んでくれるようなきっかけ作りになればと思う。

まだまだ手探りの部分があるが、学校にふれあいルームが開設できるのは意義深いことなので、いろいろ工夫しながら進めていければと思う。



指導・助言より（一部抜粋）

【はじめから成果を求めないこと】

- ふれあいルームの運営は大事なことだと思うが、初めてのことで最初から上手くはいかないということ織り込んでほしい。最初から成果を求めてしまうと厳しい。何よりも自然にそこを使っている姿を子どもたちに見てもらうことが一番大事な部分である。
- 苦労は多いかもしれないがいろいろな取組を広げていってほしい。もし可能ならば美術部の生徒などにふれあいルームの表示や看板などのアイデアをもらって、来てくださる方が近く感じる。また、部屋の中に展示ができるスペースなどがあれば、サークル活動の作品などが飾ってあるだけで雰囲気は違ってくるような気がする。あまり慌てずに少しずつ進めていくことが大事である。



【PTAの協力は大きな力】

- PTAの協力は大きな力となる。授業参観の日にあわせての公開はとても意義深く、よいチャンスになると思う。特に初めて子どもを中学校に上げる小学校の保護者の方々には、興味深くとてもありがたい機会となる。そこに自由にふれあうことができる空間があるのは心強いことだと思う。そんなところから少しずつ広がってほしい。

【大学入試の流れ】

- 受け身ではなく自ら主体的に学ぶということが重視されている。自ら課題を見つけ解決していくという流れの学習が身につけていないと、これからの大学入試を突破していけないという時代になってきている。「総合的な探究の時間」に関して各高校は非常に苦労しているが、ここにしっかりコミットしていかないとその上につながらない。文科省の主任視学官の話によると、全国で一番進んでいるのが東北大学で入試はその段階に進んでいるとのことである。高校での「総合的な探究の時間」で身につけた力がないと大学入試を突破できない方向になっている。大学はそういった人材を求めている。「主体的な」というキーワードはコミュニティ・スクールにおいても、地域においても大切にしたいキーワードである。

「国見ふれあいルーム」の開設に向けて、委員の方から数多くの建設的な意見が出されました。また、講師の野澤様から貴重な指導・助言をいただくことができました。

今年度は、インフルエンザ等の流行が全国的に続いていることから、「国見ふれあいルーム」の開設は見送ることとしましたが、今回出された意見や指導・助言をふまえ、来年度も「国見ふれあいルーム」の開設に向けて引き続き協議してまいります。